

「第28回技術士のタベ」レジュメ

(H24年1月30日(月)18:00~20:30開催)

場所 日本技術士会 荳手第二ビル5階 A. B 会議室

参加者 30名(発表者含む)

1) 講演「原子力安全規制におけるPSAの活用について」

平野 光將 東京都市大学教授、司会:内田幹事

PSA(確率論的安全評価)から得られるリスク情報を活用して原子力施設の安全管理を効果的・効率的に行おうとする試みが欧米諸国を中心に多くの国で実施されてきている。我が国でも規制当局や産業界においてリスク情報の活用に向けた活動が進められていたが具体的規制要件とはなっていない。

本講演では、まず、PSA技術の発展と活用の経緯、PSAの技術的特徴、リスク情報活用の基本的考え方が説明された。技術的特徴については、「深層防護」と「多重防護」の概念及びそのPSAとの相互補完について図解を含めて分かり易く丁寧な説明がなされた。次いで、リスク情報活用に向けての我が国の

活動や原子力発電所におけるリスク情報活用例が説明された。その中では、日本ではPA(パブリック・アクセプタンス)上良くないということで、外的事象PSAの結果等の情報を規制当局も事業者も公開してこなかったことが説明された。最後に、福島第一原子力発電所事故を踏まえたリスク情報の活用と安全確保について説明がなされた。その中では、IAEA 向け政府報告書に事故の教訓としてリスク情報活用の重要性が明記されたが、その際「安全文化の徹底」が重要であることや、EU では安全とセキュリティ(テロ対策)を統合的に考えることが要求されてきていることが強調された。

意見交換の中で、「最新知見が規制に十分に反映されなかった理由は何か?」との質問に対し、「私もそれを知りたいと思っている。米国は電力会社間の競争があるため、安全性を維持・向上させながら合理的にコストを削減するためにリスク情報を活用するしかなかったが、日本の電力会社には競争がないということも影響していると思う。日本は一度決めた規則、基準を大きな矛盾が出るまで改訂しないが、今後は科学的新知見に基づいて規制を変更していくことが必要である。我が国は地震国であり地震、津波等の外的事象のPSAを規制に導入しようとしたが、多重故障が発生する可能性の高い外的事象のリスクが大きいことを関係者は分かっていたから、色々なところから圧力が掛かったのは事実。」との回答があった。



平野 光將 氏

2) 「第一次試験合格者歓迎の集い」、司会:中野幹事

講演終了後20時から50分間、平成23年度技術士第一次試験合格者歓迎の集いが開催された。原子力・放射線部門の合格者1名(九州電力・早野幹人氏)及び情報工学部会員1名を含む計17名が参加し、合格者名の自己紹介、部会長、副部会長の挨拶及び全参加者からの自己紹介がなされた。その後、合格者を交えて懇談が行われ、和やかな雰囲気の中で進行した。



第一次試験合格者歓迎集いの風景

以上